

# 浮世絵と中国

2023年1月5日（木）～1月29日（日）

## 浮世絵と中国文化の意外なつながりを読み解く

浮世絵では「三国志」や「水滸伝」の豪傑たち、仙人や古代中国の衣装をまとう女性など、中国の人々が数多く描かれます。さらに花鳥画には内容に添った漢詩が添えられていることもあり、江戸時代の人々の中国文化に対する親しみがみてとれます。一方では仙人を女性に置き換えたり、豪傑の活躍をパロディ化したり、創作を加えた作品も人気でした。

江戸時代は、ながく鎖国下にあったとはいえ中国の古典文学や故事は教養として定着しており、また最新の中国文化は注目の的でした。中国からもたらされた文物が日本文化の展開に影響を与え続けるなか、浮世絵師たちもまた、中国由来のあらゆる画題を手掛け、派生作品も次々と生み出していったのです。本展では、江戸から明治にいたる浮世絵から中国文化の影響を示す作品をご紹介します。その意外なつながりを読み解きます。江戸の人々が触れた「中国」を知ることは、浮世絵をより深く楽しむ鍵になることでしょう。

## 江戸時代から始まった「三国志」「水滸伝」ブーム

現代でもゲームや漫画で「三国志」や「水滸伝」は人気ですが、実はこれらの物語が初めて翻訳、翻案されたのが江戸時代でした。浮世絵にも描かれ、とくに国芳は全74図に及ぶ人気シリーズ《通俗水滸伝豪傑百八人之一個（一人）》や、大画面に豪傑の活躍を描いた《通俗三国志之内》シリーズなどを手掛け、その世界観が広がるうえで大きな役割を果たしました。

## 浮世絵流、大アレンジ—豪傑が女体化!?!—

様々な題材を大胆にアレンジするのも浮世絵の特色のひとつです。例えば豪傑たちの姿も、ギャグタッチで描く戯画、町人女性に置き換えてギャップを楽しむ作品など、多様に描かれました。こうしたパロディ作品は中国画題が当時の人々に親しまれていたからこそ生まれたものといえます。

## 北斎も広重も国芳も「中国」を描いた

時代を代表する絵師たちの作品も多数ご紹介します。中国画題を日本の情景に置き換えた春信、中国由来のあらゆる画題を描いた北斎、「水滸伝」の豪傑を江戸っ子好みのヒーローとして表した国芳、漢詩を添えた花鳥画を手掛けた広重、明治に入り古典的な中国画題を総括的に描いた芳年。それぞれの作品から中国文化摂取の変遷にもふれてみてください。

## 交易がもたらした技術革新

中国からの刺激は技術面にも及びます。フルカラー印刷である「多色摺」は中国版画の影響を受けて成立したものです。また西洋の透視図法が中国版画を経由してもたらされると、「浮絵」と称される景観描写が展開します。さらにドイツで誕生した合成染料、プルシアンブルー（ペロ藍）が幕末に多用された背景には、中国から安価に輸入できるようになった状況がありました。北斎や広重の青い空や海は交易がもたらした結果の一端ともいえるでしょう。



(1) 鈴木春信「林間煖酒燒紅葉」  
中唐の詩人・白居易の漢詩世界を遊里の情景に置き換えた作品



(2) 月岡芳年「月百姿 月明林下美人来」



(3) 歌川広重「枇杷に小禽」



(4) 田村貞信「浮絵中国室内図」



(5) 歌川国芳「通俗水滸伝豪傑百八人之一人 浪裡白跳張順」



(6) 葛飾北斎「唐土名所之絵」  
中国大陆をとらえた鳥瞰図。本作の広告文では中国の詩文や「三国志」などを読む際に用いることを勧めている。



(7) 月岡芳年「月百姿 玉兔 孫悟空」



(8) 歌川国貞「玄徳風雪訪孔明 見立」  
「三国志」のエピソードのひとつ「三顧の礼」の劉備、関羽、張飛を女性で描く。



(9) 歌川国芳「通俗三国志 関羽五関破図」

学芸員によるスライドトーク 展覧会の見どころを担当学芸員が解説します。

2023年1月6日(金)、11日(水)、17日(火) 各回30分程度 定員50名 当日10:30より受付にて整理券を配布します。

タイトル 浮世絵と中国

英タイトル China in Ukiyo-e

会期 2023年1月5日(木)～1月29日(日) ※1/〇で一部展示替え

開館時間 午前10時30分～午後5時30分(入館5時まで)

休館日 月曜日(1/9は開館)、1/10

入館料 一般800円 大高生600円 中学生以下無料

アクセス JR山手線 原宿駅(表参道口)より徒歩5分

東京メトロ千代田線・副都心線 明治神宮前駅(5番出口)より徒歩3分

問合せ 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

公式サイト <http://www.ukiyoe-ota-muse.jp/>

公式Twitter @ukiyoeota

会場・主催 太田記念美術館 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-10-10

TEL 03-3403-0880 FAX 03-3470-5994

E-mail [om@ukiyoe-ota-muse.jp](mailto:om@ukiyoe-ota-muse.jp)

展示担当学芸員：赤木美智 広報：金塚さくら



太田記念美術館  
公式サイト



画像申請・取材  
の申込はこちら